



岩手県 政策地域部 市町村課

森田 萌水

Moemi Morita

平成 27年 4月 総務省採用  
同 自治行政局地域自立応援課  
平成 27年 8月 現職

## 価値観に触れること

### 地方への想いのきっかけ

鹿児島県で18年生まれ育ち、大学入学時に上京して生活する中で、故郷という存在を再認識するとともに、身近な地域やコミュニティには人それぞれが誇らしいと思うものに溢れていると思うようになりました。一方で、故郷をはじめ、日本全国の地域が抱える課題の深刻さも痛感し、地域と向き合える仕事に就きたいと漠然と考えるようになりました。そんな折、総務省の説明会において、地方で勤務する中で出会う人々の想いを受けとめ、自分の想いを深めて仕事に励む先輩職員の熱意に触れて、人の想いを汲みとることができる人間力を身につけたいと憧れを抱いたのが志望したきっかけです。そのような先輩職員に囲まれ、価値観を揺さぶられる貴重な機会に出会うことができるはずだと思ったことを覚えています。

### 岩手で感じる想い

昨年8月からの岩手への地方赴任は、私にとって多くの価値観に出会い、一つ一つの具体性をもって地域をとらえる経験となっています。東日本大震災の復興のため全力を注ぐ市町村職員、全国各地からの応援職員の想い。消費者により美味しい食材を届けたいと奮闘する地元生産者の想い。公務員としての基本を丁寧に教

えてくださる職場の上司の想い。岩手に生きる人々のそれぞれの想いに触れています。また、盛岡の夏の風物詩であるさんさ踊りや岩手の冬を体感できる雪合戦大会への参加などを通じて、「その土地で実際に住み、その土地を味わう」ということには、計り知れない価値があるのだと身をもって実感しています。今受け止めなければならない想いを大切に、いつか岩手の地に恩返しをできるように精進したいと思っています。

### 今岩手で働くということ

現在市町村課にて担当している業務の一つに、地方創生に関する交付金があります。この制度は、政府が地方創生を推進する中、地方にある「しごと」と「ひと」が繋がり、好循環を生み出すために、国が地方自治体に対して財政支援を行うものです。各市町村の担当者が人口減少社会の最前線で課題に向き合い、時には思うように進まない場面にも直面しながら、アイデアを実現しようとしている現場に出会うことを通して、一つの事業にはその土地で働く人の愛が詰まっていることを肌で感じています。地方赴任とは、現場でどう解決していくかを身につける機会であり、この経験は公務員人生における貴重な糧になると思っています。

### 価値観に触れること

「地域は課題も違えば、それぞれ価値観や論理も異なる。法律以外の地方の“常識”に精通していることが総務省の強みである」。以前、説明会で聞いた総務省の職員の言葉を、今改めて痛感しています。総務省は、地方で感じた経験を制度設計に活かす機会と、理念や政策を地方で実践する機会を繰り返しながら、自分の価値観を深めることができる職場だと思います。地域や故郷に対して何か想いを抱いている方、ぜひその想いを一緒に総務省にて実現してみませんか。



週末は県内各地へ

「渡邊さんが、どんな日本を創っていきたく思うか。その答えこそが、これから総務省で働く中で、判断に迷ったときに、必ず軸になるから。」私が総務省に入る決め手になった、先輩職員の言葉です。「日本の未来を考え続ける」。そんな思いを持って働く総務省職員の、熱さと、冷静さと、高い志を持つその姿に刺激され、今日の私がいます。

### 数手先を読む

政策形成をするにあたっては、様々な要素が必要になりますが、「論より証拠」と言われるように、どんな政策にも、その背景には必ずエビデンスが求められます。統計には、「国家を映す鏡、揺るがぬ基盤」としての重要な役割があります。私が所属する政策統括官(統計基準担当)室は、「公的統計」を支える統計法を所管するほか、統計をより多くの人に利用していただくための環境整備や、各府省庁が作成する統計間の調整・審査等を行う部局です。各府省庁が個々に統計を作成する日本の統計機構の中で、統計分野の横断的な役割を果たしています。府省横断的な統計制度を構築し、適切に運用する環境づくりに求められる役割は非常に大きいということも、日々の業務の中で実感します。

その中で私は、統計法に関する問合せ対応、省内外の照会対応、国会関係の連絡調整、会議等の準備、部局内外との連絡調整など、部局の

窓口・調整役としての役割を担当しています。調整業務において一番大切なことは「想像力」だと、上司から教わりました。将棋はあまり詳しくありませんが、数手先を考えること、つまり、相手の立場だったらどう考えるか、相手の考えを想像し、様々なパターンを想定することが、スムーズな調整につながると考え、日々の業務にあたっています。

### 人に、組織に、毎日の経験に、育てられる

はじめは、業務のスピード感に圧倒され、慣れない日々が続きました。でも、「1年目だから」と言ってぼんやりしてはいただけません。先輩には、業務の能力では決してかなわないけれども、へこたれない、泣かない、くやしさをばねにする。そんなことを自分に言い聞かせる日々です。そんな思いの一つ一つが経験となって積み重なり、今日の自分が昨日の自分よりも強くなっていくことを実感します。私の周りには、自分が何時間も悩んでもわからなかったことを瞬時に解決する上司、「失敗しなさい」と言ってくださる上司、若手を育てようと気にかけてくださる上司、そして、助け合い慰めあい互いを鼓舞し合う同期がいます。たくさんの人に助けていただく分、自分が返せるものを考えながら業務にあたるのが、周囲の人、そして総務省という組織への精一杯の貢献だと思っています。

### 1年目だからこそ、心は大胆に

私たちは、よく世間では「景気が良い時代を知らない世代」と言われます。かわいそう?いいえ、そんなことはありません。派手な成功体験がない分、過去にとらわれず、これからの時代の中でよりフレキシブルに羽ばたいていける、それが私たちの世代です。(これも先輩職員の言葉です。しびれます。)隣の誰かを幸せにするのは、だれでもない、自分自身だと信じて。頭はクールに、心にはいつも夢を。総務省でお待ちしています。



センサスクン・ミライちゃん、広報の一場面



休暇には海外旅行へ。カンガルーに癒やされる!

## 一日一日が、「私」を強くする



総務省 政策統括官(統計基準担当)付 統計企画管理官  
(総括、オンライン調査・高度化特命PT担当)付

渡邊 恵梨華

Erika Watanabe

平成 27年 4月 総務省採用  
現職